



2024 明治安田 J3 リーグ 第 13 節
5/6 (月・祝) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

ギラヴァンツ北九州

順位表 5/3現在 基本 12試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	30p	+17	24	7	A●
2	沼津	21p	+9	21	12	
3	FC大阪	21p	+9	15	6	A△
4	今治	20p	+1	15	14	A○
5	岐阜	19p	+6	19	13	---
6	金沢	18p	+2	22	20	A△
7	相模原	18p	+2	10	8	A△
8	長野	17p	+1	21	20	A●
9	琉球	17p	+1	17	16	
10	松本	16p	-3	16	19	A○
11	鳥取	16p	-4	11	15	
12	富山	15p	-2	10	12	H△
13	福島	14p	+4	18	14	H○
14	YS横浜	13p	-4	10	14	
15	奈良	12p	-3	15	18	
16	北九州	11p	-2	8	10	
17	八戸	11p	-5	8	13	
18	宮崎	10p	-6	12	18	H●
19	岩手	9p	-18	9	27	H○
20	讃岐	8p	-5	11	16	H○

次回HomeGame

第15節 vs.FC琉球

6/2 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★
アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全19試合 (J2:14試合、J3:4試合、天皇杯:1試合) 岐阜6勝 / 北九州11勝 / 2分け Jリーグ岐阜ホーム戦:5勝1分3敗			
直近の対戦結果	2023/12/02 岐阜 0-1 北九州 J3-38節@長良川			
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/05/03 J3-12節@長野U 長野 2-1 岐阜	北九州	
		2024/04/28 J3-11節@ゴースタ 金沢 0-0 岐阜		2024/04/27 J3-11節@長野U 長野 3-2 北九州
		2024/04/14 J3-10節@長良川 岐阜 1-2 宮崎		2024/04/21 J3-3節@プラスタ 八戸 0-0 北九州

● J3リーグ 2024年シーズン、第9節終了時点で暫定3位と好調を維持していたFC岐阜。しかし4/14(日)第10節・ホーム宮崎戦は、序盤から相手に主導権を渡してしまい、前半だけで2失点。後半にPK2本を獲得したが、返せたのは1点のみで2-1の敗戦、7試合連続無敗、ホーム4戦無敗の記録も途絶えてしまった。そして2週間が空いた4/28(日)第11節・アウェイ金沢戦は、両チームとも激しい攻防を繰り広げたものの、互いに決定機には至らず、スコアレスドロー。続く5/3(祝)第12節・アウェイ長野戦は、前半に#17田口裕也のゴールで先制、そしてPKを獲得するが追加点を奪えない。前半終了直前に#1 GK茂木秀が負傷退場するアクシデントに見舞われるが、その交替で入った#31 上田智輝がPKストップを見せて流れを引き寄せる。しかし、徐々に劣勢となった岐阜は試合終盤に2点を奪われ、1-2の逆転負け。直近5試合未勝利という悔しい結果となった。

この3試合の結果、FC岐阜の順位は暫定3位から5位に下降。また、1試合未消化だった節が消化されたので、ようやく全チームの試合数が揃ったことになる。無敗の大宮が首位で2位(=J2自動昇格枠)・沼津との勝点差を9と抜け出しているが、その沼津との勝点差6以内には12位・富山までがひしめき合っている混戦模様だ。岐阜も沼津との勝点差が2と、まだまだ上位を狙える位置に着けているが、下位には11位・鳥取にまで1試合で逆転される可能性があるし、この上位11チームで直近5試合が無勝利、勝点3しか積み上げられていないのは岐阜だけだ。第7節までは15得点7失点だったのが、直近5試合では4得点6失点と、得点力が大きく低下してしまっているのが、その大きな原因だろう。相手に対策されているのを打ち破れていないという言い方もできる。この壁を乗り越えることができないと、今後のリーグ戦、特に対戦が一巡するリーグ後半戦では厳しくなるだろう。チーム全体でこの壁を乗り越えて、さらなる躍進を遂げる姿を僕らに見せて欲しい。

さて、GW3連戦の最終戦、中2日となる今節の対戦相手は、ギラヴァンツ北九州だ。昨季は序盤から19位(=JFL降格圏)を脱することができずに低迷、監督交替も行われたが最終結果は20位(なお降格は回避)。今季は、昨季の鳥取を第15節から指揮して順位を18位から6位に押し上げた実績を持つ、増本浩平氏を監督に招へい。スタッフを刷新、選手も大幅に入れ替えて、今季は基礎固めの1年と位置づけているチームだ。現在は2勝5分6敗・8得点10失点で16位。総失点10とリーグ4位の堅守を誇りながら、リーグワーストタイの総得点8がネックとなっている。直近のリーグ戦5試合でも1勝2分2敗・5得点5失点と調子が上がっていないが、しかし、現在の岐阜に余裕などあるはずがない。全力で戦って、勝利しなければならぬ対戦相手だ。

北九州との通算対戦成績は、6勝2分10敗・18得点24失点。だが、北九州と岐阜は16年~21年の間は同一カテゴリーではない。参考とすべきJ3での対戦では、0勝1分3敗・3得点6失点と、実は岐阜は勝利していない。昨季の開幕戦・3/5(日)アウェイ戦は先制したが、試合終盤に追いつかれて1-1。そして昨季の最終戦・12/2(土)ホーム戦は試合終盤に決勝点を入れられて0-1。今節こそは、しっかりと勝利して、低迷しているチーム状況を向上にしていきたい。

先述したように現在の北九州は8得点で複数得点した選手はいないが、要注意選手にベテランの#10 永井龍と#21 牛之濱拓を挙げる。一方の岐阜では、#40 川上竜(18年~20年に北九州に在籍)が、北九州の攻撃陣を封印する活躍に期待したい。また、岐阜の天野賢一ヘッドコーチは、北九州でヘッドコーチを3年間(2019年~2021年)務め、一昨年は監督も務めている。そして北九州の須藤右介コーチは2014年に岐阜に在籍した選手だ。スタッフ陣の“古巣対決”にも注目したい。

中2日での連戦で、選手たちには疲労が溜まっているだろう。そんな状況だからこそ、僕らの後押しで勝利を掴み取ろう。拍手や声援をスタジアムに響かせ、タオマフやゲーフラなどでスタジアムを緑に染め、ホームの利を活かそう。そして今節こそ、試合終了後には選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT”を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第10節】岐阜 1-2 宮崎

●立ち上がりから厳しいゲームに。チーム全体の動きが重く、特に粟飯原のところまで攻撃が止まってしまっているように感じたかな。あとはパススピードが緩かったようにも感じた。連戦続き、また20℃超えの気候を考慮して、スローペースで入って後半勝負というゲームプランだったのかもしれないが、1失点目はともかく、前半のうちに2失点目を喫してしまったのは非常に痛かった。

後半は60分過ぎてから宮崎の脚が止まり出して、ほぼ岐阜のペースではあったのだけれど。田口裕也の2本目のPK失敗、これは致し方ない。自分が倒されて得たPK、2本とも自分が蹴ることしか彼の頭にはなかっただろうし、それがストライカーの矜持というものだろう。かつてのイタリアのエースストライカー、ロベルト・バッジョの名言「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持った者だけだ」という言葉だっただけである。

幸い(?)なことにこのタイミングで中一週試合が空く。これをポジティブに捉えて、2~3日しっかり休養してリフレッシュしてまた次へ。大事なものはズルズルと連敗しないこと。(岐阜の誇り)

●クラブ史上初の8戦無敗記録が掛かった試合。その相手は最下位で、TV放映があって、しかも初夏並みの気温。これまでの経験で(苦笑)、嫌な予感しかない要因が揃ってた。でも、今季は違うところを見せてくれると思ってただけどねえ……(溜息)。スタメンは左のMFが#8 荒木大吾で右が#24 粟飯原尚平。そして#10 庄司悦大と#21 青木拓矢のダブルボランチ。上野監督は昨季もベテランボランチを好んで起用するけど、僕は以前から疑問なのでして。特に暑くなってくると、この配置だと中盤の運動量が落ちて、ボールを支配できずに不利になる状況が昨季も目立ってたし、役割がカブってる場面も多いと感じていました。そして残念ながら、この試合でも不利な状況が目立っていた。また、この試合では右SB #5 石田峻真の相手である#24 粟飯原の位置から攻撃が展開できない。この日の宮崎も徹底的に“岐阜対策”を採り、良いパスを出させないための素早いプレスを徹底してきた。調子の良いときは、このプレスを中盤ではがして素早く波状攻撃というのが今季の岐阜の得意な攻撃パターンだけど、それが発動できない。前線へのボール供給に時間が掛かるので、相手に守備固めの時間を与えてしまう。疲労なのか暑さなのか、それとも油断なのか、安易なミスも目立つ。そして何より、1対1の局面で競り勝てない。ビルドアップ前にボールを奪われての1失点目も大概だったけれど、2失点目は噴飯物で。#29 野澤陸が負傷して1人足りない状況で前半残り3分。だったらセーフティで前半を終えるべきだし、自陣でボールを奪われたのなら身体を張って守らないといけないのに、その意識が見られなかった。この2失点目で試合が決まってしまったと言っても過言じゃないだろう。おそらくハーフタイムに上野監督から檄が飛んで、ようやく後半は修正した岐阜。#17 田口裕也がPKを2回も獲得したのは素晴らしい。だけど、2回とも#17 田口が蹴るべきだったのか……もちろん“たられば”なんだけど。#17 田口は蹴りたがって当然だから、ベンチから指示した方が良かったように思う。結局、1-2で試合終了。自滅した感が拭えない、酷い試合だった。幸か不幸か、次の試合まで2週間ある。しっかりと回復に努めた上で、自分たちのサッカーを深化させる時間にして貰いたい。それと、昨季も夏場に失速したのだから、今季こそは猛暑を乗り切るため、ベテランを酷使しないで若手をもっと起用してほしいと思う。(ささたく)

●何というか、まあ、我が軍ではよくある光景。好調だ一、とか思っていると、いきなりにマイマイ……な内容の敗戦。そこから始まる下り坂。今季もそうになってしまうのか？最下位に負けたコトは問題じゃない。負けるコトに上位も下位もない。逆に言えば、たかだか10節を終えた時の順位など「飾りに過ぎんのですよ。」って話。ウチの監督の息子さんも頑張ってたが、それにしたって、2点ともかなり情けない失点だった。特に、治療で一人少ない時に喫した追加点。なんか、軽いというか、ふらふら、あやふや。やるべきコトがわかってない感じ。PKを2回ももらったんだから、せめてドロウに持ち込みたかったけど、アノ内容ではねえ。決め損なったユーヤは責められない。一本は決めたし、ふたつとも彼が獲得したヤツだから。

後半は決定機もあつたが決め切れず。せつかく、ヨンジェを入れたんだから、早めの放り込みでもよかった。その辺りの戦術を明確にした方がよかったんじゃない？今後、ビハインドで終盤迎えた時の予習で。負けたままでしばらく空くのもイヤだけど、問題点を洗い出して再構築をお願いします。次節からは黄金週間。金沢→長野のアウェイ連戦。楽しみだねえ、いろいろと(笑)。(ぐん、)

●スタメン発表を見た時に「現状のベストだ」と思った。現状では「石田の前」はあいちゃんがベストだと思ってたし。でも、サブを見た時に不安が来た。これまで、あいちゃんは試合途中からFWに入って結果を残すことが多い。たしかにサブFWは新加入のヨンジェがいるが、もしあいちゃんをFWに移す事態になった時に、右2列め「石田の前」を担える選手がサブに誰もいない。ガッキーもおいちゃんも河波も(荒木を右に持っていく時の)アキトもサブにいない。これでは、あいちゃんを最後まで右2列めで使うしかない。

そしたら、あいちゃんをFWに移すどころか、そのあいちゃんのところで攻撃が閉塞してしまう。とにかく前に仕掛けない。これでは石田との連携もあつたもんじゃない。たしかに左の荒木も疲労が濃かったけど、あいちゃんの精彩の欠きっぷりはハンパじゃなかった。だから、これはベンチワークのミスだ。あいちゃんのコンディション不良を見抜けずに代役を用意しなかったベンチワークのミス。

とにかくチーム全体がふわ〜とお疲れモードのまま先制点、さらに野澤の負傷で10人の時にもう1失点。後半、ユーヤのゴリゴリパワーが効いてPKを2つゲット。もし2つとも入っていれば3-2で勝てたような気もするが、それはあくまで仮定の話だ。

まあ、とにかく選手には「連戦お疲れ様」と。2日間のオフになったようだし、しっかりフィジカルをケアしてください。そして指導陣は、チーム・マネジメントをもう一度しっかりと見直して。(吉田鑄造)

【第11節】金沢0-0 岐阜

●どちらからも得点の二オイをあまり感じられなかったので、スコアレスドローはまあ妥当な結果だったかと。

金沢は岐阜がボールを持つと、5バックにして両サイドをしつかりと蓋をし、ボールを奪うとショートカウンターで攻めるという形を徹底していた。後半マリソンや大山啓輔が退いてからは、岐阜のペースでゲームを進める場面も多かったのだけれど、ぐっと引かれた相手に対して、どう崩して攻め込んで行くかがこれからの課題かな。

あと、後半の途中で交代して開幕からの連続出場時間が途切れはしたが、そろそろ庄司悦大はしっかり1~2試合くらいはベンチからも外して休ませた方がいい時に来ているかもしれない。今日も球際の所でほんの少し出遅れたりしているのが見受けられた。庄司が退いたことで青木拓矢が岐阜加入後初めて90分ボランチを任されたわけだが、彼もフィジカルに不安がある感じは否めない。

ケガ人が増えつつある状況だが、今こそ若手選手たちの奮起が求められる時。GWで再び連戦が続くスケジュールだが、しっかり準備して勝ち点3をもぎ取りたい。

初めて訪れた金沢ゴーゴーカレースタジアム。やっぱり専スタっていいよなってどうしても思ってしまうね。(岐阜の誇り)

●痛恨の敗戦から2週間。この間の選手の休養とチームの立て直しが上手く図られたかどうか、その試金石となるのは昨季J2の金沢。さてスタメンは、今節もMFの左は#8 荒木大吾で右は#24 栗飯原尚平、#10 庄司悦大と#21 青木拓矢のダブルボランチ。これが現在の最適解と上野監督は考えているのかなあ。さて試合は、後方からボールを保持して相手の隙を窺う岐阜に対して、ボールを奪ったら縦に繋いで攻める金沢の構図。とりえず宮崎戦とは異なり、岐阜の選手たちのプレーの強度は戻っている模様で安心したけれど、残念ながらシュートまでが遠い。僕が少し前から気になっているのは、開幕戦当時には見られたような、中央突破が減ってしまっていると思う。そりゃ右SB#5 石田峻真の爆上がりは素晴らしいけれど、それに頼りすぎでは対策されやすい。MF4人の距離が開いて、(昨季と同様に)FWの後ろのスペースを使えなくなって、だからセカンドボールも拾えなくなっているようにも思える。まあ、こちら辺は対戦相手の戦術や対策もあるから難しいところですが。

内容としては、お互いの中盤での攻防に見応えのある試合だったかと思う。けれど、お互いに決定機と言えたのは、金沢は前半の#77 マリソン、岐阜は後半の#24 栗飯原ぐらいだったかなあ。後半に#6 北龍磨と#99 イ・ヨンジェが投入された辺りから岐阜が何度も好機を作り出していたけれど、あと少し時間が足りなかった。アウェイでスコアレスドローはやむなしかなあ。#11 藤岡浩介の怪我だけが心配です。

それにしても金沢の新しい専用スタジアム、シャトルバスも何路線か出てるし駐車場も広くて、噂に違わぬ素晴らしいスタジアムですね、ゴール裏以外は(苦笑)。金沢のゴール裏は、段差もあって見やすい(ように見える)し屋根完備で声もよく響くのに対して、アウェイ側の扱いの酷さときたら……。まあ、そういう“戦略”なんでしょうけど。あと、スタグルは長良川の圧勝というか、前の石川西部の方が種類も豊富で良かった。この辺りは、なかなか難しいんだなと思いました。(ささたく)

●試合は真正正銘のスコアレス・ドロー。今季初かな？悪くはなかったと思う。思うけども決定機は何回あったっけ？後半のあいちゃんのミドルとファールを取られた&シュートがGKの正面に飛んだヤツぐらい？ここんとこ、順位を上げてきた金沢の方がやや優勢、って感じかなあ？でも、宮崎戦のようなコトはなかったからヨシとしよう(してはいけないんだけどね)。いろいろと研究もされてきたし、数少ないチャンスしかないなら、ソレを確実に決めてほしい。

あと、コースケの状態はどうなんだろう？日程が立て込んでるからねえ。ムリはしてほしくないけど、なんとか、無事でありますように。ヨンジェの調子が上がってきてくれるといいんだけど。長野戦のスタメンが気になるところ。

総じて、試合よりも新スタの印象の方が残ってる感じかなあ(苦笑)。いや、実に素晴らしいスタジアムだった。やっぱり、専スタはイイね。アウェイ側ゴール裏以外は、ね。バクスタからの観戦だったけど、ゴール裏は箱庭のように見えた。試合もスコアボードも見づらいだろうなあ、アレは。カテゴリーが上がったら改装するのかな？でも、密集してる感にはよかった。

それから、なんだか、スタグルが寂しくなったような？カレー以外の金沢らしさはいずこへ？ドリンクカーに優しくなくなった気もするなあ~と思ってたら、海鮮関係や丼系はバクスタのコンコースに。さらに、2店舗が【ドリンク専用列】を設置してくれていた。ありがたい！メインもそんな感じかな？せっかく、バクスタ下に寛ぎスペースがあるので有効的に活用していただきたいかな？あと、試合後の駐車場。もう少し、交通整理をなんとかしてもらえんかね？横断歩道周りにはあんなに整理員を配置してるのに、駐車場内はカオス。ご一考をお願いします。

さ、次は南長野運動公園だ。健誠、待ってろよ！(ぐん)

●0-0が妥当な内容。そう書くと「勝つこと出来たよ！」という反応もあるだろうけど、そうなら同じくらい「負けなくてよかったあ」という反応も出てくるだろうな、と。

懸案の『石田の前』問題は、この試合もあいちゃんが担当。さすがに宮崎戦のようなパフォーマンスじゃなかったけど、やはりどうにもスッキリしない。それはあいちゃんだけのせいじゃなくて、金沢は岐阜ボールになると、それがCBでパスまわしをしている時でも、5バックにして両サイドに蓋をした。でも退いているわけでもなくて、そこから一気に仕掛けるだけの推進力も持っていた。これは厄介だなあと思った。あと、FWマリソンが味方を活かすプレーに徹していたのも良かった。後半は自分へのマークが薄くなったところでガツガツと個人技で来るんじゃないか、と。

ところが後半15分あたりでマリソンが交代、さらにスピードで岐阜守備隊を困らせていた大山も交代。あれあれ、金沢が自分から「弱く」なって行く。もし、岐阜のコースケがケガで下がってなかったら、勝ち点をあと2増やせたかもしれない。もちろん、彼と交代で入ったトモヤはよくやってたと思う。でも、残念ながら『絶えず相手に警戒を強いる』という仕事はまだ出来ていない。ヨンジェも、まだヨンジェらしさをしつかり見せるまでにはなっていない。なので、双方ともにフェード・アウトした感じの「妥当な0-0」だった、かな。

ここ最近の岐阜は『戦術の手詰まり感』が濃くなって来ていると感じる。中でドリブルで縦筋を乱すなどの仕掛けが少ないので、守りやすくなっちゃってる。ここをブレイクスルーしないと、結局のところ順位表の真ん中周辺という例年に近いところで終わってしまうよ。(吉田铸造)

【第12節】長野2-1 岐阜

●アウェイサポ、特にゴール裏サポにも圧倒的に優しい専用スタジアム・長野Uスタ。まあ電光掲示板が見えないのが欠点だけど、どうしても、その前の金沢ゴーストと比べちゃいますよね（苦笑）。そして#27 横山智也がリーグ戦初スタメンに。#11 藤岡浩介の怪我が心配だけど、#27 智也の今後の飛躍に期待！さて試合は、序盤から互いに中盤での激しい攻防に。ただ、やはり岐阜の攻撃には中央の選択肢が無くなっていることが気になります。もちろんサイド攻撃に特徴のある選手がいるし、だから前半22分の#5 石田峻真がオーバーラップしてクロス→#17 田口裕也はヘッド、の得点パターンは大事にしたい。だけど、それだけだと相手は守りやすいのも事実なので。それと、#17 田口はPKの練習しましょうね（溜息）。PA内で存在感を出しているからPK獲得なのは良いことだけど、4本とも同じコース（しかもギリギリという訳でもない）というのは、流石に……。そして、前節の#11 藤岡に続いて、#1 GK 茂木秀が負傷退場。倒れ方もイヤな感じだったし、周囲の選手たちが一斉に×を出したし、かなりの怪我じゃないかと心配になります。主力選手を怪我で欠くのは厳しいけれど、その代わりとなる選手たちの奮闘にも期待したいところです。そして交替で入った#31 GK 上田智輝は、PKストップを見せる奮闘ぶり。だったら、この試合は最後までしっかりと守り切って（あわよくば追加点を入れて）勝利するパターンだと思ったんだけどなあ…（溜息）。徐々に運動量で圧倒され、攻撃も機能しない。期待の#99 イ・ヨンジェも、まだチームに馴染んでいないのか、存在感を出せていない。FKからのヘッドで同点に追いつかれ、右サイドを突破されてクロスからのヘッドで逆転されて。全ゴールを目の前で見られた長野サポさんは、さぞかし幸せな気分だったことでしょう（溜息）。アクシデントがあったとはいえ、同点に追いつかれてから立て直すことができずに逆転負けしてしまったのは、本当にチーム全体で猛省して欲しい。ピッチ内にいるベテランが声かけをして修正とか、してないんだろうか？って思える感じ。ミスではなく、完全に長野に力負けしたという感覚が、余計にしんどい思いになってしまいました。唯一の救いは、現在リーグ得点王の#18 浮田健誠に“恩返し弾”を決めさせなかった、ってことかしら（苦笑）。

昨季は4月から4連敗、今季は4月から未勝利と、どうにも4月に調子を落としてしまう。5月からは、再び調子を取り戻して欲しいものです。（ささたく）

●ああ、やっぱり、イイなあ、このスタジアム……と今回も嘆息。訪れるたびに同じことを呟いてるんだけど、心底、帰りたい。ウチにも出来ないかな？なんとか、ボクの目の黒いうちに（苦笑）。

久しぶりにゴール裏に陣取り、仲間達のアツイ後押しを身近に感じるのが心地良かった。あとは結果だけだったんだが……。ホームのサポが一番喜ぶ展開と結果にしちゃったのがね。金沢戦より出来はよかったと思うんだけどな。

前半途中まではよかった。特に先制点は美しかった。追加点が取れてたらなあ。そのチャンスもあった。PKをユーヤが蹴るのは妥当。FWが自分で獲得したヤツだから。同じコースへ蹴るのも構わない。読まれても取れないヤツを決めればいいのだ。そして、アレを外したから負けた……というワケではない。ウチもトモキが止めてくれたからね。アクシデントの中の出場（ソレが控えのGKの宿命とはいえ）でよくやってくれたと思う。ただ、流れの中のプレーにいくつかのズレが見受けられたような気がする。同点にされた場面とか。当分はスタメンになるだろう。がんばってほしいね。

それにしても、モギシュー。アレは長引きそうな感じだ。なんでもない、本当になんでもないルーズ・ボールだけだだけにな。エースFWに続き守護神までも。キツツイなあ。ただ、試合は待ってられないからね。全員で切り抜けよう！（ぐん、）

●試合終了の瞬間、悔しさなんて湧いてこなかった。悔しさが出て来たのはスタジアムを出て篠ノ井駅に向けて歩き出した時だ。背後から長野サポ達の歓喜の雄叫びがエコーとともに流れ込んで来た、その時くらい。だって、「勝てる試合」じゃなかったからね。「このまま勝てたらいいな、って試合」だったから。負けて納得、です。

これがいまのFC岐阜だ。3月末のアウェー松本戦が劇的な勝ち方だったので忘れがちだけど、あの試合だって「試合そのものは松本のゲーム」だった（この『岐大通』にもそう書いてます）。3/23のホーム岩手戦に勝ち、松本になんとか勝ち、以後は△△●△●。やれやれ、今年も4月はコレ……か。

この試合もあいちゃんが右2列め。いまでも「右2列め問題」に限って言えばベストな回答かもしれない。でも、「チームの問題」への回答としてはワーストに近いということが、ここ最近の試合でわかる。「あいちゃんは2人いない」からだ。あいちゃんが「スタメンで」右2列めに入ることで、FWのスーパーサブがいなくなってしまった。ヨンジェにその役目を求めているのだろうけど、いまのところ有効なプレーはほとんど出来ていない。ヨンジェ自身もモヤモヤしているかもね。コースケが負傷して、トモヤがFWに。うん、がんばってる。がんばってるのは認めるけど、ボールを受けた時に失わないで味方に捌くのが精一杯だ。その位置のプレーでは4-4-2ではない、4-2-3-1だ。両翼はもっと前に仕掛けて来ないと攻撃は薄いままになる。

この試合の序盤はホントに「どうしたんだいつ、へいへいっベイビー」と故・糸野清志郎の声で歌ってしまうくらいに厚い攻撃を仕掛けて、久しぶりに、ホントに久しぶりに石田がペナルティエリアのすぐ横まで上がってきて真横方向のクロスをユーヤが合わせた。でも、そこまで。長野が修正してからはいつもの閉塞状態に。それを打ち破るパーツが「あいちゃんのサブ起用」だったんだけど、残念、あいちゃんはベンチにいない。

序盤の好調時、「サブメンバーの充実ぶりは昨季の比ではない」というようなことを書いたと思う。でも、当時のスタメン勢に負傷者が続出して、そこにサブだったメンバーが入ると、さすがに「現在のサブメンバー」は、残念ながら流れを変えるなどの働きはむずかしい。結局、やりくりということになる。そう考えると、ここ最近の機能不全を監督のせいとかにするのも厳しいか。J3では（しかもクラブの人件費抑制策の最中で）そこまで選手層を厚く出来ないからね。とはいえ、対戦相手からしたら知ったこっちゃない。「岐阜は5バックにすれば勝てる」。これを、いまのメンバーで打開しないとイケない。なんらかの変化が要る。個人的には、スタメンでユーヤ+ヨンジェの2TOPで遠くからどかんどかんの巨神兵作戦もありなんじゃないかと思っている。そりゃコンビネーションは厳しいでしょう。でも、「2TOPなんだけど実質は1TOPが2人」なんて、昨季だってそうだったじゃない。（吉田醸造）